



## 馬耳東風

カオスという用語がある。辞書によるとギリシャ神話の宇宙開闢説における万物発生以前の秩序なき状態で、すべての事物を生み出すことのできる根源とされ、カオス理論では生命現象や社会現象への応用が注目されているという。まさに予測困難な挙動こそがカオスであり、近代科学が達成した自然観に変更を迫るものとみなされている。この哲学用語が、欧州債務危機で世界経済が混沌としている様を表現するメディアの活字に登場した。ギリシャが経済統合で巨大化するEUに仲間入りを果たしたものの、蓋を開けたら経済債務が民主主義の屋台骨を揺るがす破目になり世界を驚愕させた。まさにギリシャ発カオスの到来であった。流星に主要先進国のフランスとドイツが核となり危機回避に努めているが政局の変化で予断を許さない。かつて訪ねたギリシャでは勤務時間中でもカウンターの客を平気で待たせ、コーヒーカップを手放さず個人のありかたを優先していた。客の方が飲み終えるのを待っていたものだ。午後になると休憩時間をたっぷり取り、夕方近くに働き出した。日本社会だと最も仕事に精を出し労働効率が上がる時間帯だ。これも国民性で歴史ある先進性のなせる業かと考えてもみたが、世界の経済競争はそんなに甘いものではない。ユーロの低迷は、円高に拍車をかけ国内輸出産業に苦戦を強いる。いまや震災後の国内復興を軌道に乗せ、直面する震災失業に手を差し伸べ、加えて景気対策で国内経済に

活気と活力を作り出すことが急務である。既に計画停電や節電が行われていながらも、電力供給能力は不安だらけである。原則40年の廃炉設定は脱原発の方向性を示すもので、負の遺産を引き連れ電力原価を底上げして経済へ圧力となる。政策増税がささやかれ生活や生産意欲へ影を落とす。一方、触発されたさまざまな代替エネルギー技術が先進的課題に向かって研究開発され頼もしい。

一方、アラブの春はチュニジアのジャスミン革命から端を発し、民主化要求行動としてアラブ世界に限らず世界へ影響を及ぼした。暴動による民主化要求は長期独裁政権に向かった。失業・腐敗・人権問題で前例の無い民衆デモや抗議行動が繰り返され、エジプト・リビア・イエメンの政権を打倒した。リビアは事実上の内戦に突入したが、NATOの介入と国民評議会等の作戦によりカダフィ政権は崩壊した。シリアは混乱し今や国連監視下にある。

これらの背景には情報伝達手段としてインターネットの普及がある。規制が困難な衛星放送の効果は大きい。ネット拡散は、十分に理解し責任を持って行うことだ。デマに惑わされない確かな判断力が求められる。そんな折、理研が安心と不安感・ワクワクとイライラ感など4象限のマトリクス「KOKOROスケール」を開発した。3.11の調査も踏まえ、難しい心の動きを数値化で捉える。この困難な時代に社会心理を把握する手段として興味深く見守りたい。(柏)